



文部科学省後援 第6回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2020年12月19日(土)、20日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：オンライン開催 (Zoom)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、公立大学法人大阪 大阪府立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、一般社団法人
日本英語交流連盟、一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団



参加校：

(北海道) 北海道釧路湖陵高等学校、(青森県) 青森県立青森高等学校、(岩手県) 岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立一関第一高等学校、(秋田県) 秋田県立角館高等学校、(茨城県) 清真学園高等学校・中学校(栃木県) 栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立佐野高等学校、私立作新学院高等学校、(群馬県) 群馬県立前橋高等学校、(埼玉県) 埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立伊奈学園総合高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、(千葉県) 翔凜高等学校、(東京都) 東京都立日比谷高等学校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立両国高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、武蔵高等学校、豊島岡女子学園高等学校、富士見高等学校、獨協高等学校(神奈川県) 神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、栄光学園高等学校、聖光学院高等学校、浅野学園高等学校、洗足学園中学高等学校、湘南白百合学園高等学校、(富山県) 富山国際大学附属高等学校、(石川県) 石川県立金沢泉丘高等学校、(福井県) 福井県立藤島高等学校、(長野県) 長野県長野高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、(岐阜県) 岐阜県立岐阜高等学校、(静岡県) 静岡県立静岡高等学校、(三重県) 三重県立四日市高等学校、(京都府) 京都市立堀川高等学校、京都市立日吉ヶ丘高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、(大阪府) 大阪府立北野高等学校、関西大倉高等学校、(兵庫県) 神戸市立葺合高等学校、神戸大学附属中等教育学校、(奈良県) 奈良県立奈良高等学校、奈良県立郡山高等学校、(鳥取県) 鳥取県立鳥取西高等学校、(山口県) 山口県立山口高等学校、(徳島県) 徳島県立城ノ内高等学校、(香川県) 香川県立高松高等学校、(福岡県) 福岡県立城南高等学校、福岡県立香住丘高等学校、(佐賀県) 弘学館高等学校、(熊本県) 熊本県立熊本高等学校、熊本県立第二高等学校、熊本県立八代高等学校、(鹿児島県) 鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立大島高等学校、(沖縄県) 沖縄県立球陽

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

論題(論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます)：

予選 1：Wearing a mask should be mandatory.

(マスクの着用を義務化すべきである。)

予選 2：The media should not report on suicide.

(メディアは自殺のニュースを報道すべきではない。)

予選 3：Infertility treatment should be free.

(不妊治療を無償化すべきである。)

予選 4：Class-size reduction in elementary schools does more good than harm.

(小学校での少人数学級は、害よりも利益をもたらす。)

準々決勝：Tuition fees for university STEM departments should be free.

(大学理系学部の授業料は無償とすべきである。)

準決勝：Prevention of COVID-19 should be prioritized over boosting economy in developing countries.

(発展途上国において、経済よりも新型コロナウイルス感染症対策を優先すべきである。)

決勝：Japan should introduce a basic income.

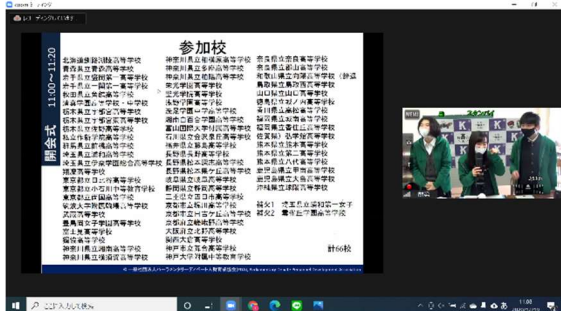
(日本は、ベーシックインカムを導入すべきである。)

キーノートレクチャー講師:

- 文部科学省 科学技術・学術総括官 合田 哲雄 氏
- 東京大学生産技術研究所 次世代育成オフィス 大学院情報学環 准教授
川越 至桜 氏
- 国際協力機構(JICA) ウガンダ事務所 井上 裕紀 氏

1 日目

本大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。開会式では、65校の高校が紹介されました。北は北海道から南は沖縄まで、全国から高校生・教員・見学者がZoomのミーティングルーム内に集まりました。数多い参加者で画面が埋め尽くされ、例年と変わらない熱気の中スタートしました。大会でのルール諸注意、PDA認定教育ジャッジの紹介、大会ジャッジまた 트레이ニーとして参加していただいた教員や大学生へ向けたジャッジ手順の確認が行われました。



開会式の様子（左上：参加校一覧）

開会式が終わるとついに予選の開始です。64チームが一斉にディベートを行います。1日目は予選が4試合行われ、その結果を受けて準々決勝に進出するチームが決まります。予選1の論題は「マスクの着用を義務化すべきである。」です。肯定側はマスクをしないことによる感染拡大の懸念や着用しない人が周囲に与える影響を説明し、否定側は夏季やマスクアレルギーを持っている人が義務化により受ける影響を出しているチームがありました。例として、実際に自分の学校でしている感染対策も紹介されました。



予選 1 八代 VS 角館

予選 1 終了後昼休みがありました。生徒たちが次のラウンドに備えて休息をとる間、校長先生方とのご挨拶（オンライン名刺交換会）を実施しました。イベント開催が難しい現状の中、この規模の大会が実現したのは校長先生方、教員の皆様のご理解、参加校の皆様ののおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。



校長先生方、KDDI 財団理事長ご挨拶(オンライン名刺交換会)の様子

予選 2 の論題は「メディアは自殺のニュースを報道すべきではない。」です。1 試合目でジャッジにもらったアドバイスなどを参考にしながらも、有名人の例やメディアの役割、報道がされなかった場合の影響などについて白熱した議論が行われました。



予選2 日比谷 VS 球陽



予選2 四日市 VS 嵯峨野

2試合目と3試合目の間にレクチャーが行われました。大阪府立大学看護学類准教授の大川先生により、不妊の原因や不妊治療の種類、現状行われている支援について説明があり、治療にかかる費用や不妊治療に対する悩みなど普段聞くことのない情報に生徒たちは興味津々でした。



大阪府立大学看護学類准教授 大川先生のレクチャー

予選3の論題は「不妊治療を無償化すべきである。」です。レクチャーで学んだばかりの内容をそれぞれが整理し、慣れない単語やデータを使いながら精一杯論点を述べていました。ディベート後にはチーム同士で交流を深めていた学校もあったようです。



予選3 葺合 VS 郡山



予選3 横須賀

予選4の論題は「小学校での少人数学級は、害よりも利益をもたらす。」です。全国の様々な場所から集まっている全国大会ならではの、異なる立場からの意見が多く聞かれました。第4ラウンドは試合後のジャッジからの勝敗の発表はありません。翌日のブレイクアナウンスメントをお楽しみに!(翌日、各校へジャッジからのコメントシートが配布されます。)



予選4 盛岡第一 VS 北野



予選4 香住丘 VS 伊奈



予選4 金沢泉丘 VS 高松



試合後には交流もありました



予選 球陽



予選 県立浦和

第4ラウンドが終わると外はすっかり暗くなり、熱中していた時間の長さには驚かされました。生徒たちも明日の発表への不安もありつつ、4試合全力で成し遂げた達成感を感じさせるいい顔を見せ1日目終了いたしました。

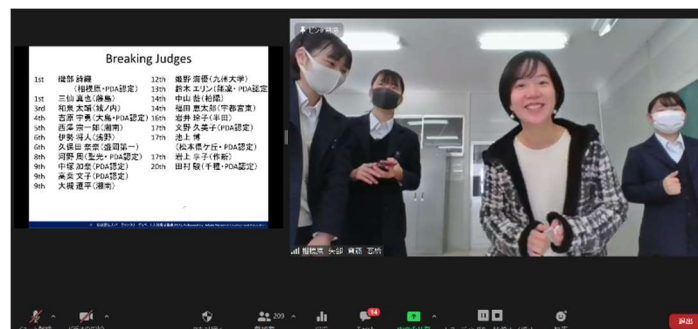
事前に各校に郵送されている内容物の中でPDAオリジナルポストイットとお菓子のクリスマスプレゼントがありました。Merry Christmas! See you next day!

2日目

2日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表（Break Announcement）です。緊張した面持ちの生徒が続々と集まってきます。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次の学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジをそのフィードバックの内容と表現でそれぞれ5段階評価します。平均点が高かった20名の先生方が発表されました。おめでとうございます。

次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの声が響き渡りました。

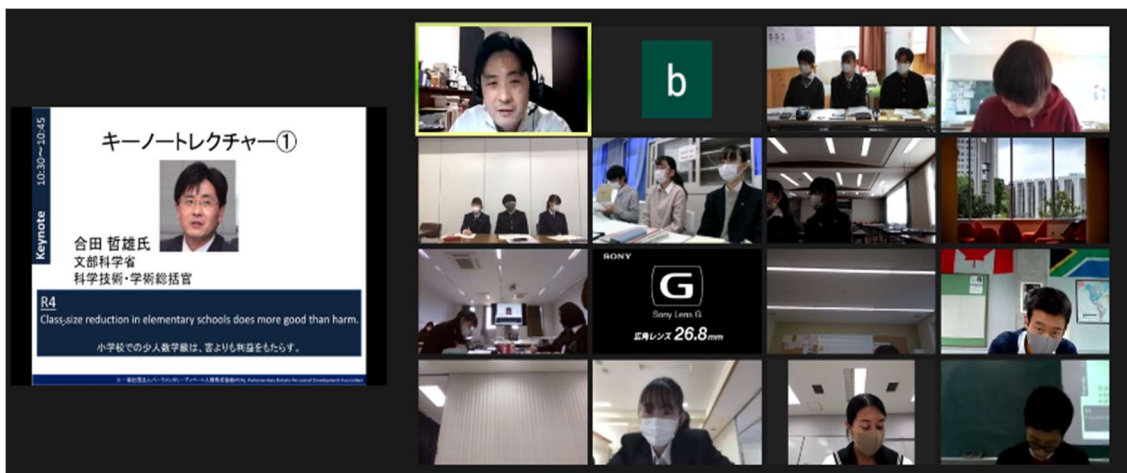


先生のジャッジ受賞に喜ぶ生徒たち(最優秀ジャッジ賞)

予選結果

- 予選 1 位 聖光学院高等学校
- 予選 2 位 神戸大学附属中等教育学校
- 予選 3 位 筑波大学附属駒場高等学校
- 予選 4 位 栃木県立佐野高等学校
- 予選 5 位 徳島県立城ノ内高等学校
- 予選 6 位 湘南白百合学園高等学校
- 予選 7 位 岩手県立盛岡第一高等学校
- 予選 8 位 富山国際大学付属高等学校

準々決勝の論題は「大学理系学部の授業料は無償とすべきである。」です。出場者が準備をしている間、文部科学省科学技術・学術総括官の合田哲雄氏から前日の第4試合に関してこれからの学びの在り方についてレクチャーがありました。



文部科学省 合田 哲雄氏によるキーノートスピーチ

準々決勝は 4 つの会場で行われました。新型コロナウイルスの感染拡大を経て認識されるようになった研究者養成の必要性が主張される一方、教育として文系科目との差別化を進めることに対する懸念や既存の奨学金制度に至るまで、準々決勝にふさわしい議論となりました。



準々決勝の論題発表

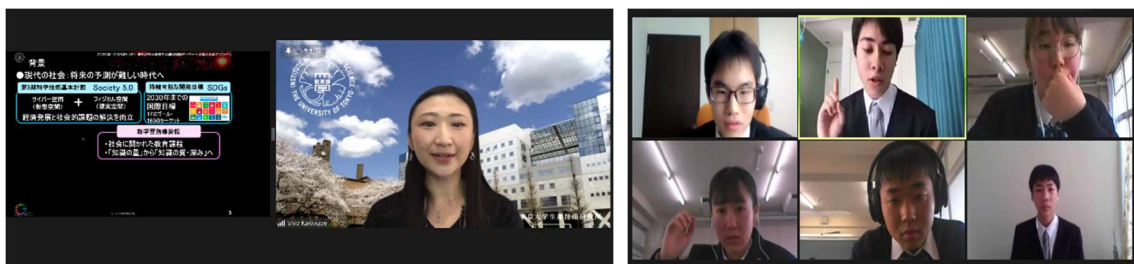
準決勝進出を喜ぶ生徒

準々決勝終了後は、お昼休みです。昼食をとりながら交流します。メインルームではブレイクアウトルーム機能を用い、少人数に分けて生徒同士の交流会が行われ、ディベートに関する話題や各校の特徴、クリスマスケーキについてなど高校生らしい楽しそうな会話が聞こえてきました。



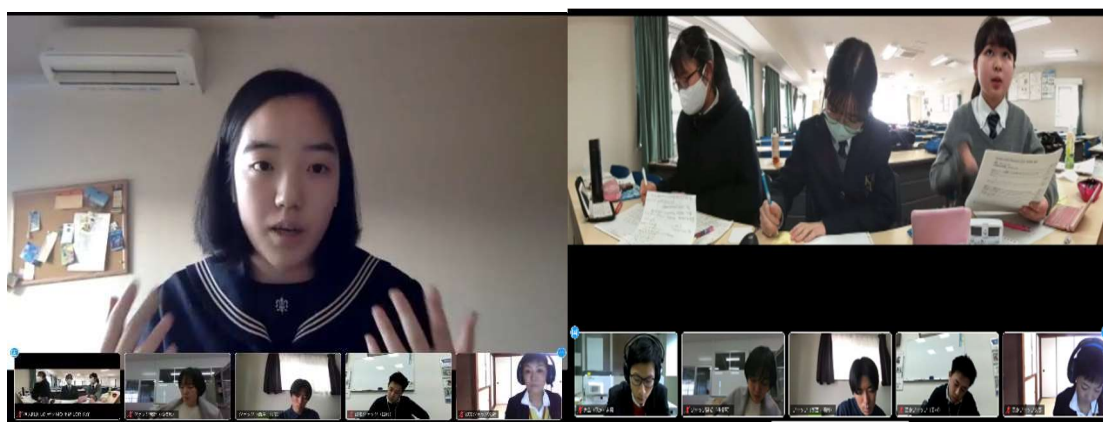
生徒交流会(オンライン昼食会)の様子

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「発展途上国において、経済よりも新型コロナウイルス感染症対策を優先すべきである。」です。15分の準備時間の間、東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス大学院情報学環准教授の川越至桜氏より準々決勝の論題に関するレクチャーがありました。これから社会に出るために欠かせないスキルや、論題であったSTEMに人文系科目を加えたSTEAM教育が新しい価値創造に必要であること、そのために東京大学が行っている試みを紹介されました。



東京大学 川越 至桜氏によるキーノートスピーチ

準決勝 聖光 VS 城ノ内



準決勝 湘南白百合 VS 神大附

準決勝のあとは、いよいよ決勝戦です。決勝の論題は「日本は、ベーシックインカムを導入すべきである。」です。3位決定戦も同時に行われました。

また、決勝の準備時間の中に、国際協力機構（JICA）ウガンダ事務所の井上裕紀氏に、準決勝の論題にあった発展途上国であるウガンダの現状について講演をしていただきました。大学時代ディベートをされていた経験からの準決勝の講評もあり、生徒たちは真剣に聞いていました。



JICA 井上氏によるキーノートスピーチ



緊迫した決勝戦の様子



3位決定戦の様子



決勝戦後、エア握手する生徒たち

決勝戦、3位決定戦が終了し、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われました。また、文部科学省・外務省後援 第6回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会（ワールドコンGRESS）への出場権を手に入れた学校も発表されました。

第6回 PDA 即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：聖光学院高等学校

準優勝：湘南白百合学園高等学校

第3位：神戸大学附属中等教育学校

準決勝出場チーム（第4位）：徳島県立城ノ内高等学校

準々決勝出場チーム（ベスト8）：

- ・富山国際大学附属高等学校
- ・岩手県立盛岡第一高等学校
- ・筑波大学附属駒場高等学校
- ・栃木県立佐野高等学校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。2022 年度より、新学習指導要領に記載されている新科目「論理・表現」において、ディベートやディスカッションを行うことが示されており、質の高い授業導入が期待されます。

<授業導入優秀賞>

- ・青森県立青森高等学校
- ・秋田県立角館高等学校

<授業導入賞>

- ・岩手県立一関第一高等学校
- ・岩手県立盛岡第一高等学校
- ・栃木県立宇都宮東高等学校
- ・私立作新学院高等学校
- ・栃木県立佐野高等学校
- ・栃木県立宇都宮高等学校
- ・埼玉県立伊奈学園総合高等学校
- ・埼玉県立浦和高等学校
- ・獨協高校
- ・東京都立日比谷高等学校
- ・神奈川県立多摩高等学校
- ・神奈川県立柏陽高等学校
- ・長野県長野高等学校
- ・岐阜県立岐阜高等学校
- ・京都市立日吉ヶ丘高等学校
- ・京都市立堀川高等学校
- ・大阪府立北野高等学校
- ・葦合高等学校
- ・奈良県立郡山高等学校
- ・山口県立山口高等学校
- ・徳島県立城ノ内高等学校
- ・福岡県立城南高等学校
- ・福岡県立香住丘高等学校
- ・弘学館高等学校
- ・熊本県立第二高等学校

- ・熊本県立八代高等学校
- ・鹿児島県立大島高等学校
- ・沖縄県立球陽高等学校

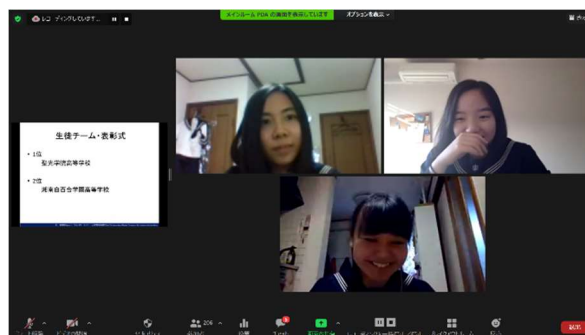
<その他個人賞> (多数、個人名は略)

- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞

以上の結果を受け、第6回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の5校に進呈されました。

<1位~3位> 聖光学院高等学校、湘南白百合学園高等学校、神戸大学附属中等教育学校

<授業導入優秀賞> 青森県立青森高等学校、秋田県立角館高等学校



優勝: 聖光学院高等学校

準優勝: 湘南白百合学園高等学校



賞を取った生徒には賞状また一部副賞が授与されます

アンケートの声（抜粋）

【生徒の声】

- ・全国の高校生とオンラインで簡単に関わることができて大変刺激になった。今後ニュースを自分から取り入れ、機会があったら来年挑戦したい。（金沢泉丘）
- ・今回初めての参加だったのですが、他の高校さんのディベートを聞き、素晴らしいなあと思いました。また、高校との交流では、お互いの知らないことも沢山知れて良かったと思います。また機会があれば是非参加したいです。（日吉ヶ丘高校）
- ・初めて全国大会に参加しましたがとても楽しく、大変勉強になりました。特にジャッジの先生の客観的な個人コメントや、主張をより強化するためのアドバイス等がとても役立ちました。（釧路湖陵）
- ・パラメンタリーディベートの大会に出るのが初めてだったのですが、全てを即興で用意し即座に反論しなければいけない、さらには時に自分の意見と反対の主張をしなければならないという難しい条件が知的好奇心を刺激し、とても楽しかったです。全国の様々な高校と試合をさせて頂き、決勝トーナメントも見学できたことで沢山のことを学ばせて頂きました。（清真学園）
- ・（遠隔開催について）私は1年生なので、直接会ってやるディベートの経験がほぼないので、直接に比べて緊張しないし、表情も伝えやすいと思います。また、会場に行かなくて良いのも移動が楽で良いです。私は、遠隔開催でなかったら参加していなかったと思います。（四日市）
- ・全国からディベーターが集まり、試合をするだけでなく交流を楽しむ空気があり楽しかったです。論題もタイムリーなものばかりで日頃から新聞を読んで自分なりの意見を考えておくとか活かそうだなと感じました。個人的には、高2の先輩も帰国子女もいない中で1年生3人で1つの大会を乗り越えられたことをとても嬉しく思います。これからも目先の勝ち負けに拘りすぎず、部活の仲間とディベートを楽しんでいきたいです。（豊島岡女子）
- ・コロナという悲惨な世の中で希望も楽しみも普段より消えてしまいそうな中で開催できたこと、周りから多くの刺激を受けたこと、自分の成長を感じながらも今後の成長に繋がるような戦いのできたことが何よりも嬉しかったです。来年は受験期で参加できないと思いますが、ディベートの楽しさ、英語の楽しさと難しさを身に染みて感じながら、今後の人生の中で生かせる機会を積極的に探していきたいと思いました。ありがとうございました。（浦和第一女子）
- ・夏に参加したときよりもより一層深めることができこれからの活力にもなりました、他の試合を見たりもう少しこうすればよかったなとか考えたりできてよかったです（山口）

- ・ 普段よりもとても良い刺激になったと思います。学校では同じ人とディベートをしている関係で、どうしても同じような考え方に陥りやすいが、全国大会では驚かされるような観点の考え方や表現など非常に多くを学ぶことができとても良かった。(奈良)
- ・ 全国の素晴らしいディベーターの方々と熱い議論を交わせたから。また、ディベート後には談笑をし、とても楽しかったから。(一関第一)
- ・ 交流会のように、ブレイクアウト機能を使用することで実際に会場ではあだけの他校の方々と交流できなかつたと思うので、この点が特に良かったです。(富山国際)
- ・ 初めてブレイクして嬉しかったです！ 普通のパーラより短くてどうすれば質の高いスッキリとしたスピーチができるのか、そこに取り組むことを頑張りました。この技術は、普通のパーラを超えて、社会でも役に立つものだと思います！(盛岡第一)
- ・ 出てくる論題が考えさせられるものばかりで大変面白かったです。個人的には JICA の方のお話がとても興味深く、将来像が少しずつ clear になって行くのを感じました。(藤島)
- ・ 参加させていただきありがとうございました。予選敗退という結果でしたが、他校のディベートからたくさん得るものがありました！ 同い年の子が頑張っている姿に刺激され、自分を高めるいい機会になりました。ありがとうございました！(高松)
- ・ ハイレベルなディベートに 4 ラウンド参加できた。他校との交流時間が楽しかったから。(洗足)
- ・ 自分の英語力はまだまだだと実感すると同時に、更にレベルアップしたいという思いが強くなった。とても良い刺激を受けた。(静岡)
- ・ (本大会で最もよかった点) アルフォートがもらえたこと。試合を通じてキャリアを積めたこと。(長野)

キーノートスピーチについて

- ・ 事前に自分達が用意していた情報よりもより具体的に且つ多角的に分析されていて、それらが実際にどのような影響を与えてきたかなども知れてとてもためになった(横須賀)
- ・ 論題について理解を深められた。(筑駒)
- ・ 普段はお会いできないような方からお話を聞けてとてもためになりました。(岐阜)
- ・ 自分の全く知らない分野を知れて良かったです。(熊本)

【教員・見学者の声】

- ・レベルの高いディベートをたくさん見ることができました。ジャッジもたくさんさせていただいて、とても勉強になりました。また、いい経験にもなりました。今回、1位に選んでいただけたのも衝撃で、嬉しい思い出になりました。各校の先生方、生徒、PDAのみなさまのおかげです。
- ・生徒にとっては良い経験になりました。私自身も見ていて面白かったです。ありがとうございました。
- ・年々レベルが上がっていると思います。参加の都道府県が多いことも魅力です
- ・今回初めての出場でしたが、ジャッジの仕方等も含め非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・参加2回目ですが、参加するたびに生徒、教員が成長させていただいています。今回も大きな刺激をいただき、よい体験をさせていただきました。引き続き、PDA 頑張らせませう！来年度も戻ってこれるように精進いたします。ありがとうございました。運営の皆さま、本当にありがとうございました。
- ・（キーノートスピーチについて）不妊治療については難しかったのですが、終わってみればディベートにどう使うかを考えながら聞くことが大切だったと、生徒は気づいたようでした。これもいい学びでした。
- ・円滑な運営で参考になります。運営方法をご助言頂ける機会があるなら是非お願いしたいです。
- ・今まで準備型英語ディベートしかしていなかったもので、即興型の楽しさが分かりました。レクチャー、キーノートレクチャーもとてもいいアイデアだと思います。
- ・（遠隔開催について）東京までは、いけないので、遠方の学校はうれしいですね。見学もできなかったと思います。（見学）
- ・高校生が努力を重ねている様子を見て日本の教育のすばらしさを感じた。（見学）

以上